新教育課程
—続・本校での取り組みについて—

研究部　西　野　貴　子

1　始めに

昨年、新教育課程～本校での取り組みについて～を書いたが、カリキュラム編成の途中段階で終わっているので、この稿ではその後の経過を報告したいと考えている。従って、新学習指導要領の内容そのものの集約については、ここでは改めて書かないので、前号（高校教育研究紀要第41号）を読んで頂ければ幸いである。

昨年度から今年度一学期にかけての本校内の動向について少し触れておく。新教育課程のことについては、昨年10月頃から、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の将来構想をまとめるほうが時期的に迫って、学校中が殆どそちらに忙殺され、実質上の伸展を見なかった。つまり、各教科、将来構想のために文部省に提出すべき書類の作成に追われていたのだった。しかし、それが終わり、三学期になって平成２年11月の第14回研究協議会のために準備を進めていく内に、中途半端になっている新教育課程表を検討し直す必要があるという意識が高まり、将来構想、つまり、新校舎のことも含め、附属高校としての特色あるカリキュラムを練ることに懸命になった。今年度に入り、委員会は都合６回開かれたが、その問題点と各回の主旨をまとめると次のようになる。

問題点１：理科、地理歴史・公民科の時間数の再検討
〃　２：地理歴史・公民科の講座制の廃止に伴う別案検討
〃　３：３年次における単位の格差をつけるか、つけないか
〃　４：本校の教育課程編成上の方針は何か

第１回教育課程委員会：前年度までの引継ぎ事項と今年度残された問題の確認
第２回　〃　：移行措置と地理歴史・公民科、理科の具体案
第３回　〃　：総則解説に伴う各種事項の確認と方針への動き
第４回　〃　：方針決定のための討議
第５回　〃　：方針の文面、新教育課程表案の討議
第６回　〃　：単位数表記上の変更

前号は各教科中心にカリキュラム編成を述べたが、今回は、第１回から第６回までの委員会の流れに沿うて報告したい。

2　教育課程委員会経過報告

(1)第１回教育課程委員会　　平成２年６月７日（木）

今年度教務主任の交替に伴い、新学期のいろいろな行事が終わって学校が軌道に乗った頃、研究会のために前年度途中になっているカリキュラムの検討及び、教務として残された諸問題の討議と検討の為に開かれたのだが、ここでは新教育課程のことについてのみ述べる。

まず、昨年からの引継ぎ事項として、次のア～ウの３つが挙げられた。

ア　理科、地理歴史・公民科の時間配分に問題点がある。(高校教育研究紀要第４１号新教育課程P.12)

イ　週休２日制になったらどうするか。(１月の教育課程委員会の議題より)

ウ　３年次における選択制の導入をどうするか。(　　〃　　)

教務としての基本方針は、「新指導要領を踏まえ、従来の伝統的姿勢と傾向を踏襲し、移転後の予測される問題点（例えば週休２日制等）は別途対応するものとする。」として出されたので、問題をアとウに絞ることにした。

これに対して地理歴史･公民科の委員より、「もっと根源的な問題を解決してから、具体的にいえば、生徒本位の視点から、生徒の指導を各教科としてどのように、どの程度行なうか、目標はどこにおくか、を解決してからでないと、時間配分など決められないのではないか」との意見が出される。しかし即答は困難なので、今後の大切な課題として各教科で考えるということで合意を得た。

また、本校では改訂案２（資料２、注：高校教育研究紀要第４１号「新教育課程」では資料４に相当する。）でも見られるように、理科と地理歴史･公民科はスタッフの数に制限があるため、常にセット授業として考えられている。理科としては、地理歴史・公民科のことを考えずに理想的な時間配分を言えば、１年次で４単位を６単位に変更する。その上で考えると、１年で２単位６時間を物理ＩＢ・化学ＩＢ・生物ＩＢに充て、２年で２単位を文系、理系で各々ＩＢを２つ選択し、３年で３単位IIを理系では２つ、文系では１つ選択するという形を取ると、昨年度から問題とされている、単位認定上の懸念が無くなる。又、１年では自然現象を学ぶ３つの視点（物理的、化学的、生物的）をまず養い、２年ではその３つの視点の内、自分にあった視点から２つ選び、３年では理系はその視点でさらに深く理解する能力を養い、文系はその２つの内、さらに自分にあった視点での理解をより深めることが出来る。このように個々の生徒の理科的素養に応じて自然現象に対する理解を深めるように配慮出来ることである。そしてこのように組むもう一つの理由は他教科にもあるように、ＩＢとIIの履修の順番が固定されているからであり、しかも物・化・生の領域から２つ取らねばならないからである。従って、化学ＩＢと物理IIという順序で履修出来ないということになる。しかし、後に述べるが、スタッフの数、許される時間数などの制限の為、現実的には改訂案５のような形態を取らざるを得なかった。

ここでどの科目もすべてひっくるめて再検討してはどうかという案が出され、委員全員同意する。この根底には、昨年度からの合意事項として学力を落とさないということが条件としてあったからだと思う。

次回は、上に述べた提案もあり、地理歴史・公民科、理科からの具体的な教育課程の配分を提示してもらうことになった。

(2)第２回教育課程委員会　　平成２年６月２１日（木）

前回の教務部の方針に更に本校移転問題の基本構想（本附属学校園の７つの教育目標）を組み込む。すなわち、この目標を噛み合わせ、その中に新しい教育課程を求めるのが妥当な方向であろうと考えた。本校の教育課程は更に建学の精神と伝統の上に、新しい環境の中での新しい条件に対応出来るものでなければならない。大変欲張ったカリキュラムを作ろうとしているのである。

参考までにそれぞれの目標を引用しておく。

＊新教育課程重点目標：

1　豊かな心をもち、たくましく生きる人間の育成をはかること
2　自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を重視すること
3　国民として必要とされる基礎的・基本的な内容を重視し、個性を生かす教育の充実を図ること
4　国際理解を深め、我が国の文化と伝統を尊重する態度の育成を重視すること

（中等教育資料　臨時増刊　p.595）

＊本附属学校園の統合移転基本構想の中の教育目標：

目標1「豊かな人間性を備えた人格の育成」
目標2「生涯学習の基盤をつくる」
　　－　自ら学ぶために　－
目標3「健全な身体を育成する」
　　－　地域の特性に応じた方法で　－
目標4「文化的活動を促進する」
　　－　情緒性の育成を目指して　－
目標5「徳性の涵養を目指す」
　　－　特別活動をとおして　－
目標6「国際社会、情報化社会に適応する基盤を作る」
目標7「安全性を確保する」

（統合移転「基本構想」より抜粋）

＊目標1の第4段階、高等学校においては
豊かな人間性の完成に向かって、自己開発を促す。
①　個性や能力に応じて、自己を高めていく。
②　健全な心身を育成し、自主・自由・自立の精神を身につけていく。
③　知的創造力、文化的能力を高め、高い品性を陶冶し、国家社会に貢献できる人間となる。
④　国際社会に貢献できる人間となる。

（　　同　　上　　）

こうして比べて見ると各々が新学習指導要領の精神に則って作られていることがよくわかる。

次に移行措置関係のプリントの配布により、内容を確認し、本校では昨年度、平成6年度から逐年移行とすることに決定したことを再確認した。

また、第1回委員会の時にもっと全体を考慮したら、という意見から、地理歴史・公民科としての理念についてまとめてもらうことになっていた。前年度まで、地理歴史・公民科は講座制を提唱しており、是非ともこの線で行きたいということだったが、講座制にした場合、どのような科目を設置するかに始まり、どのように講座を組合せると効果的か、その上で授業の組み方はどうか、他教科（例えば家庭科）との共有範囲はどの程度か、単位の認定や表記のことがうまく行くかどうか、現状スタッフの数で可能かどうか等、あらゆる場合を考えてみた。が、これらの条件を満たすことが出来ない問題点が山積みになった。昨年秋より関係機関に問い合せたり、研究指定校の研究会に参加して意見を聞いたりした結果、現状の案では実施不可能という結論に達し、致し方なく講座制をやめることになった。大学のように高校にも講座制が出来れば、本校としても大きな特色となると思っていただけに大変残念である。

そこで地理歴史・公民科としては、今回の改訂のメインでもあるし、教科としての理念をあきらかにしたいと、下記のような案をまとめた。出来るだけ多くの科目を履修させること、何

らかの形で講義形式以外の授業を取り入れること、の２点を強く主張した案である。

新教育課程編成の目的……本校地理歴史科・公民科の問題意識に基づいて……

①科目領域を越えた社会認識・世界像（観）の育成

（「情報化社会」・「国際社会への対応」を受けて）

②生徒の個性・能力に応じた教育と自主的自律的学習の重視

（「個性重視」・「生涯学習」への移行を受けて）

③小・中・高校教育の一貫性の考慮（「生涯学習」への移行を受けて）

実施案

地理歴史・公民科　　（太字は必修科目を表す）

教科	科目（標準単位）	1年	2年 パターン1	2年 パターン2	2年 パターン3	3年 2科目受講者	3年 1科目受講者
地理歴史科	世界史A(2) 日本史A(2) 地　理A(2) 日本史B(4) 世界史B(4) 地　理B(4)		**1** **2** **2** ※パターン１～３のうちいずれかを選択必修	**2** **1** **2**	**2** **2** **1**	4 4 4 ④ ＋ ④	1 1 1 ① 4 4 4 ④
	単位数小数	0	5	5	5	8	5
公民科	現代社会(4) 倫　理(2) 政　経B(2)	**4**				(4)	
	単位数小計	4	0			(4)	

注：◆地理歴史科

＊２年次の３つのパターンは多科目を選択履修させることと、講義形式以外の授業方法を取り入れる機会を設けるためのものである。

＊日本史・世界史のいずれかを受験科目にするものは各々Ａ２単位履修し、さらに地理１単位を選択必修する。以下、他のパターンについても同様に考える。

＊３年での選択パターンは２科目受験者と１科目受験者に区分する。

（従来の文系、理系という区分は採用しない。）

＊１科目受験者の３年での１単位選択科目は、２年次の選択科目の継続で、２年間通じて２単位科目（Ａ）として単位を認定する。

＊３年で４単位科目（Ｂ）を履修する場合は、２年次で２単位履修した科目（各Ａ）に限る。

＊単位数について

２年５単位　＋　｛３年８単位（２科目受験者；４＋４）→１３単位
　　３年５単位（１科目受験者；４＋１）→１０単位

◆公民科

＊１年次で必修科目として履修する。

＊３年次では「地理・歴史科」4単位科目（B）の代わりに、倫理B（２）、政経B（２）を履修することも出来る。
＊単位数について
１年４単位＋３年４単位（選択者のみ）→４または(8)

この案では多様な科目を学ぶという地理歴史・公民科の初期の目的は少なくとも果たせているし、１についてはこれからもよく検討しなければならないが、他教科に大きな刺激を与えたと思われる。

また理科からも前回の説明の具体案（全く理科にシフトしたもの）が出された。この案は単に参考に見た程度なので、掲載は避けるが、思いきって認定単位数を減じ、標準単位数に合わせたゆるやかな案だったが、演習部分が多く、スタッフ数の関係でとてもこれだけ演習時間は取れそうにないことで、全面的に受け入れが可能ではない。そこで次の点について各教科で考えることになった。３年次の修得単位に格差を認めるか、否か。全体にどんなことを教えるか。つまりたくさんの科目を生徒は習うのか、どうか。また、その場合、低学年中心か、高学年中心か、などを考える。

(3)第３回教育課程委員会　　６月29日（金）

総則編の解説書が発行され、以下抜粋により、次の事項を確認した。

①教育課程編成の主体がこれまでの「学校において行なう」から、「各学校において行なう」と「各」の字がついたことで、全教師の協力の下で校長が責任者となって編成してもよいということを確認した。

②教育課程編成の原則

ア　法令及び学習指導要領の示すところに従うこと
（高等学校学習指導要領解説総則編p.54）
イ　生徒の人間として調和のとれた育成を目指すこと　（　〃　p.55）
ウ　地域や学校の実態を十分考慮すること　（　〃　p.56）
エ　課程や学科の特色を十分考慮すること　（　〃　p.57）
オ　生徒の心身の発達段階及び特性等を十分考慮すること（　〃　p.58）

③自己教育力の育成及び基礎・基本の重視と個性を生かす教育の充実（　〃　p.58）
ア　自己教育力の育成　（　〃　p.59）
イ　基礎・基本の重視と個性を生かす教育の充実　（　〃　p.60）

また、この時、秋の研究大会を考えて大方向ずけを打ち出すべく、その基礎案を次回教務部より出してもらうことになり、１学期中にその方向ずけが出来ないと各教科、特に地理歴史・公民科は動きが取れないという切迫感があり、次回は時間的に無制限の教育課程委員会を開くことになった。

(4)第４回教育課程委員会　　７月９日（月）

教務部より出された案（編成方針、教育課程表－改訂案３）をもとに各教科の意見を述べ、延々９時間に渡る話し合いがされた。もう夏休みまでの日数も少なく、今回で方針を出しておかないと後がないという、緊迫した会議であった。その案の中の問題点や要旨をとりながら、書きすすめたい。

1．高等学校学習指導要領改訂の基本方針……第１回教育課程委員会で確認した事柄で変更なし。
2．附属学校統合移転基本構想に盛られた基本構想……第２回教育課程委員会で確認した事。
3．教育課程編成の一般方針……第２回教育課程委員会で確認した事。
4．１と３に照らして本校の現行の教育課程に過不足があるとしたら、それは何か。
(a)上級学校に進学出来るような教育課程を編成してあるので、各教科科目は標準単位を上回り、学習できるようにしている。
(b)２年、３年に進むに従って文系理系の２コースに分け、より現実的学習の徹底を図っている。
(c)個人的な指導というよりも全体の指導を行なっている。→個人指導の徹底を図る必要あり。
(d)文系理系に分けた生徒の中に、その区分に入りきらない生徒がいるが、その生徒への対策が取られていない。→選択履修制がやはり必要か。
(e)１年から２年に進む段階で早くも文理に分ける選択の強制はやや問題が残る。→３年次での理系から文系へのコース変更者が毎年数人はいる。
(f)個性の発達、創造性の啓発、自助努力の開拓という方面の学習指導がない。
(g)論理の展開、全体を統括する能力の開発に指導が行なわれていない。
(h)教育活動全体を通じた道徳的基本の規範が指導されていない。
(i)勤労奉仕の体験学習がない。

こうして列挙してみると、なんと現行のカリキュラムには憂慮すべき点の多いことか。それらをどこまで解消出来るか。特に(f)(g)(h)(i)については、大いに考えなければならない、なんとか少しでも解決しなければならない、と委員一同同意する。

5．本校が教育課程を編成するに当たって、その指針は何であるべきか。
まず、指針を立てる前に、次の３つのことが確認された。
ア　4．で述べた現行の教育課程の過不足を充足し、消去するだけで本校の目指す教育は出来るとは思えない。
イ　基礎、基本の学習の充実はもとより、社会に貢献し、国際社会にも進出出来る人間の育成を目指していることは当然今回の改訂の主旨でもあるし、これを入れたい。
ウ　又、各教科の学習で生徒の学力が大いに優れている場合とその逆の大いに遅れていて、ノルマがこなせない場合が考えられるが、その両者にどのように対応していったらよいか。また、このことも今回の改訂の主旨の一つであるから、これを考慮に入れずに教育課程の方針及び教育課程表は考えられない。
さて、ア、イ、ウをすべて満たす教育課程編成の指針とは何だろうか。最初の教務部の文面を次にそのまま記載する。

①本校独自の歴史的背景や展望を無視することなく、伝統的、社会的学校の条件や実態を十分に考慮して、かつ生徒の個性の伸長と独自性を尊重する態度をとりつつ、生徒の調和のとれた発達を図り、生徒の発達段階や特性をも十分に考慮する。
②生徒の発達課程を的確にとらえ、生徒全体の流れを注意深く配慮しながら、個々の生徒の特性に適切に対応する。
③教科科目の専門性と系統性を重視するため、学年をおって学習の幅と深みが得られるよう

に、科目の履修順序や配列を考慮する。従って、低学年にあっては基礎的基本的な教科科目の配慮を促し、低学年全生徒の必修科目とする。

④学年をおって、より専門的な科目を配置し、生徒の適性と個性の進展に従って履修と修得ができるように配慮する。

⑤中高学年では履修はするが修得はしないでもいい、選択制の導入を図る。しかし、その選択制には自ら範囲が限定されるべきものとする。そのための基準は学校がこれを定める。

⑥いわゆる必修科目については、全員が履修と修得をしなければならないが、その他の科目については、各教科科目の学校としての指示に従わせることを原則とする。しかし、その他の場合については、次のように弾力的な履修方法をとる。

○履修と修得には次の場合が考えられる。

a．履修もするし修得もする。　（定期考査受験）

b．履修はするが修得はしない。（定期考査受験の放棄、代わりにレポート提出による）

c．履修はするが修得はその時の状況と条件による。（同上）　以上は単位認定

d．初めから履修を放棄し、別の「その他の科目」を選択履修する。

⑦卒業に必要な履修と修得の単位合計は全員同一の修得単位とする。従って、上記の選択制の導入については、履修科目の単位を「その他の科目」の履修修得単位をもって代替とする。

⑧「その他の科目」の履修は、図書館で当該科目の属する教科の教官の指示と監督によって、自学自習する。指示された研究と学習とをレポートの形で提出して、単位の認定をして貰い、当該科目の単位修得の代替とする。その期間は当該科目の実施されている期間と同一とする。具体的には、当該科目の単位の修得はないが、「その他の科目」で、当該科目と同等の単位を修得したこととなる。

⑨従って、この「その他の科目」には当該科目と関係の深い科目名が用意されなければならない。例えば、「……実習」、「……演習」、「……表現」、「……研究」、「……一般」、「……基礎」、「……専修」とかいったものである。　（教務部のプリントより）

本文を少し修正しながら読み進み、問題として討議されたのは、下線部の「その他の科目」と「全員同一の修得単位とする」の２点であった。

前回の委員会で１、２年生は出来るだけ多くの科目、分野を履修させること、これは基礎、基本の充実につながる。３年生は選択制をどうするかということで結論を得ないままになっていたので、このあたりの決定から入っていった。３年次においては、近年の傾向として、初めから私立大学を目指す生徒が何人かいるようになってきている。その中で、国立大学を目指す者と全く同じ理科、数学の時間数を勉強させるのは非合理的だから、弾力的に単位数の格差を認めてはどうかという意見も出、格差を認めるか否かを討議し、全体的に認めるという意見が多く、格差を認めることにした。では、もし認めるとしたら、

ア　どの程度認めるか。→当分の間、？科目？単位までとする。→２科目５単位あたりか。
（→後に２科目４単位と決定。）

イ　そのメリット、デメリットは何か。→一部の生徒の負担は減るが、その雰囲気が広まると学力が落ちないか。

ウ　その時間をブランクにするか、しないか。

(a)もしブランクにすると、サボル原因にならないか。→予想がつかない。

(b)もしブランクにすると、履修即修得としてきた点はどうなるか。→生徒に対しては履修即修得としておくが、履修しても修得せずの形もあり得る。

(c)ブランクにして「その他の科目」を履修するようにするか。

→自習時間とするよりもテーマ学習の方が前向きである。

→レポートの内容によって科目の増単位として扱う。

→その場合、通常の授業で授業をせずにレポートだけで単位を認定するケースが出てくる心配がある。

(d)学校の雰囲気に与える影響は？→やる気のない生徒が授業に出るよりはかえってよいのではないか。→易きに流れる傾向が出てよくない。

エ　最低必要な単位数はどれだけとしたらよいか。→何単位までブランクを認めるかということにつながり、新学習指導要領の精神からすると、Ｌコースは理・数科目をブランクとし、国・地歴・公民を対象とすべきではないし、Ｓコースは理科１科目とすると、結局Ｌコースは数学か理科、Ｓコースは理科１科目で最大４単位となる。

→最高102単位、最低98単位とし、102単位を切る者は「その他の科目」２単位を取ることとする。

結局、いろいろな問題や可能性は含むものの、「その他の科目」として希望してきた場合、教官室で不定期に個別指導をもって、授業時間の確保にあて、２単位を認定する。つまり、102単位より減らした生徒は必ずどこかでレポートによるテーマ学習をして２単位取ることにした。それ以上はブランクになってもよい。生徒を自由に活動させる、ということになった。しかし、この方法はあるコースを選択した生徒には弾力性はあるが、通常の授業を受けている生徒にはない。全く受験にシフトしていると受け取られるかもしれない危惧はある。修得単位数はもう少し少なくてもよいのではないか、創造性や個性化はどうなっているかという意見に対して、各教科の中で対応すればよいという意見もあった。これまでの「全員同一」の修得単位という事に比較すれば、これは大いに弾力的に図ったと言えよう。

テーマ学習については、夏休み中に、委員の一人が、すでに卒論等をテーマ学習として取り入れている東京大学教育学部附属高等学校、東京学芸大学附属高等学校大泉校舎を訪れ、そのやり方、種類、成果等について聞いてきて参考にしようということになった。(平成２年８月初頭、この２校を学校訪問して、実際にいろいろ話を伺い、貴重な資料を頂戴してきた。ご協力を頂いた関係学校には厚くお礼申し上げる。)

ともかく、ここで大体方針を決める方向が定まったので、次回もう一度、方針とする文の練り直しと、カリキュラム表の時間配分を考えることにした。但し、理科、社会科はこれまで大体セット授業で、２年から文・理に分けていたが、理科の方で、２年次に文・理系に分けて授業することが不可能となった。その理由は次のようである。１、２年で４時間しか取れないこと、スタッフの数に制限があり、同一科目を２クラス以上同時に展開出来ないことである。この２つの理由と、２科目必修の為、１、２年に渡る履修の必要があること、又、科目間の関連性から１つの科目を終了後、他の科目を履修するのは不要に時間がかかることから、複数科目の同時履修が必要になる。従って１、２年に渡って履修させる必要があり、その為に２年で文・理に分けることが出来なくなった。地理歴史・公民科も第２回教育課程委員会でも言っていたように、２年では文・理に分けないことになった。このことを確認し、第４回教育課程委員会は終わった。

(5)第５回教育課程委員会　　７月13日（金）

第４回委員会で出された方向ずけによって、第５番目の指針の修正案をもとに文章を更に練り、同時に教育課程表を作り上げるのが今回の目標であった。以下にその修正案を掲げる。

①本校独自の歴史的背景や展望を無視することなく、伝統的、社会的学校の条件や実態を十分に考慮して、かつ生徒の個性の伸長と独自性を尊重する態度をとりつつ、生徒の調和のとれた発達を図り、生徒の発達段階や特性をも十分に考慮する。

②生徒の発達課程を的確にとらえ、生徒全体の流れを注意深く配慮しながら、個々の生徒の特性に適切に対応する。

③教科科目の専門性と系統性を重視するため、学年をおって学習の幅と深みが得られるように、科目の履修順序や配列を考慮する。従って、低学年にあっては基礎的基本的な教科科目の配慮を促し、低学年全生徒の必修科目とする。

④学年をおって、より専門的な科目を配置し、生徒の適性と個性の進展に従って履修と修得ができるように配慮する。

⑤２年次における文理のコース別履修制を取り入れない。

⑥３年次において、文理のコース別履修制を取り入れる。

⑦３年次において、履修単位の格差を設ける。ただし、その幅は34から36までとする。従って、卒業に必要な履修単位の合計は、１年から３年までの３年間を通じて、106から108までとする。これに対して、生徒独自の選択による修得単位の幅については、２科目４単位とし、その内、少なくとも、１科目２単位を修得しなければならない。

⑧この２科目４単位の履修について、生徒の発達段階や特性を十分考慮して、科目選択が出来るようにする。

⑨選択履修の科目の範囲は、教養主義をとる学校側の姿勢に反することのないような範囲に限るため、文系では、数学Ｌ１に対して、また、理系では、理科２科目のうち１科目に対して、行なわれるものとする。

⑩各教科の学習指導にあたっては、個々の生徒の特性と能力を十分に考慮して指導し、習熟度別学習指導をいかに行なうか、という点を具体的に考慮する。　　（教務部プリントより）

①を少し訂正。②はよくわかって当然のことなので削除。③、④は少し訂正。⑤は第４回教育課程委員会の項の最後に述べた理由でわかっているので削除。⑥、⑦は上記①、③、④を指針とする具体案なのでその旨述べて、ア、イとする。又、⑦のただし以下はカリキュラム表の下に注釈としてつけることにして削除。⑧は⑦と重複する部分があるという理由で削除。⑨は理科は３年Ｌではすでに１科目になっているので削除。⑩はそのまま残す。かくして出来たものが資料１の指針である。

またカリキュラム表の時間配分については、１～４回までの委員会の理科、地理歴史・公民科から出されたものを改訂案２に加味し、全体に見なおそうという姿勢で教務部がまとめたものが改訂案３（資料３）であった。今回は、

１．国語科より１年国語Ｉ・６単位を国語Ｉ・４単位と国語表現・２単位にする。その理由は出来るだけ多くの科目を学ぶという目的からであった。

２．地歴・公民科は第２回の委員会で出されていた案を入れたもの。その内、２年で世界史Ａ１、日本史Ａ２、地理Ａ２の廃止。その理由は世界史Ａは必修なのに、１単位では単位認定しがたいということからである。３年でＳコースの①は全体合計３７になるので、削除。

３．数学科は３年Ｌで数学Ｃ５単位を数学Ａ、Ｂ、Ｃを２、２、２に分け、その内、Ａ、Ｂは選択で履修しなくてもよいとする。

４．理科は物理ＩＢ，化学ＩＢ、生物ＩＢ、１・１・２を０・２・２とする。３年Ｓは物理II、化学II、生物II、４・４の選択を物、化、生、ＩＢ、２・２とII、２・２とする。これは指

針の基礎基本の多様性と充実に反することになるが、スタッフの関係で致し方なく、又、文系は物理を取らないことになる。文系は化学、生物しか取れないことになったが、実際、文系では物理を選択するものは皆無なので、現実的処置を取ったと、考えた方がよい。

5．保健体育科では、男女とも9単位を下らぬことという高等学校学習指導要領総則第3款の2(1)の約款より、そのままとし、あとはスタッフの関係で変則クラスで授業を行なうことは高校教育研究紀要第41号で全ね述べてきたところである。

6．芸術も保健体育科と同様、第3款2(2)で3単位を下らぬこととある。これは前にも述べたが本校では講師でまかなっているので特に取り上げていない。

7．外国語科（英語科）は2年の36＋1を削るため、1を拠出し、英語II 3→2にした。また、3年でL、Sコースともにライティングをきちんと標準単位にしようと1→2に、英語IIを3→2にした。しかしLコースで数学又は社会を取らない生徒は33単位となるので、かねてからの英語科の希望である習熟度別授業を1時間やるということで、2＋1＝3Hとした。

8．家庭科では男女共修という今回の改訂のメインでもあるので、1、2年で2単位ずつは維持した。

さて、以上のことをまとめて出来たのが改訂案4（資料4）である。

改訂案4は改訂案2の問題点（理系の時間の少なさ、評価や単位認定の問題点）を少なくとも解消しているものであるといえる。改訂案2の長所（抱き合わせによる互いの時間数調整を合理的に解消）をさらに上回って各々に特色ある時間数を出すことが出来ている。また、文系科目（国社英）の教科も各々時間的に多く、改訂案2と同様、さらに基礎、基本の充実、国際化、生涯学習へとの道を開くことが十分可能であるカリキュラムと考える。

以上の方針とカリキュラム表は7月20日（金）教官会議で協議され、承認された。

(6)第6回教育課程委員会　　8月31日（金）

7月20日に決定承認されたカリキュラムに、その後、地理歴史・公民科と数学科から更に検討の結果、表記上のことで、一部変更したいとの申し入れがあった。

まず、地理歴史・公民科からは、

1. 1年の倫理･政経2･2を現代社会4とし､3年の現社4を倫理･政経2･2となるように表記を変える。
2. 2年世界史A・日本史A・地理Aの2・1・2の1は単位認定しにくいので、世界史A地理A2・3とし、3の内、1は内容的には日本史Aでやるようなことをする。もう1つについても同様に考える。

これに対して、検討した結果、1は承認されたが、2は1に特徴を持たせているのに、これをなくしてしまうのはこのカリキュラムの特異性が失われる。2年と3年に渡って標準単位としてあれば、十分認定出来るという理由で、そのままの表記とした。

次に、数学科からは、

改訂案4では1年で数学I 4単位、数学A 2単位、計6単位(標準単位は6単位)、2年で数学II 4単位、数学B 3単位、計7単位（標準単位は5単位）なので、これを1年数学Aを2単位より3単位、2年の数学IIを4単位より3単位として各々合計7単位、6単位としたい。その理由は1年の数学Aとしてしなければならない分量が改訂案4のままでは2年に持ち越すことになるからであった。そこでこれを検討した結果、英語科より、オーラル・コミュニケーションAを1年、2年で各々1・1とし、1年6単位、2年7単位とすることにした。

こうして出来たのが、改訂案5（資料5）である。この案は9月3日、教官会議で協議され、承認を得た。

3　終わりに

6月から8月にかけて6回のカリキュラム委員会で各委員が忙しい中、教科の代表として互いに忌憚のない意見を述べ、改訂案2をさらによいものにしようと改訂案5まで練り挙げた。委員会へ持ち出すまでに各教科の中で十分話し合って出されたものばかりで、どの案を取り、どの案を捨てるか、積んだり崩したりの連続だった。改訂の余地がまだまだあるかもしれないが、本校としては、各教科の要望を巧みに組み込み、しかも生徒のニーズにも応じていると大いに自負出来るカリキュラムである。

その後、附属学校園統合移転構想に多少事情が生じ、高校の新校舎建設は必ずしも実現する可能性があるとは言えなくなった。事態は、昨年最初に新教育課程を取り組んだ時とは変わったといえよう。しかし、いろいろな構想を盛り込んで、これだけ練り挙げたカリキュラムは、事情がどう変わろうと、幅広い対処が出来るはずであるし、そう簡単に揺るぐものではないだろう。このカリキュラムをいかに効率的に実践していくかが今後の課題であろう。

参考文献：

高等学校学習指導要領　文部省　平成元年　3月20日

高等学校学習指導要領解説　総則編　文部省　平成元年　12月25日

高等学校学習指導要領解説　特別活動編　文部省　平成2年　2月20日

中等教育資料　臨時増刊　中学校学習指導要領　高等学校学習指導要領　平成元年4月号

新教育課程　－本校での取り組みについて－　西野貴子　高校教育研究紀要　第41号

資 料 1

新 教 育 課 程

(平成6年度移行逐年移行)

金沢大学教育学部附属高等学校

教 育 課 程 編 成 方 針

1．本校独自の歴史的背景および展望を重視し、学校としての伝統性、社会的存在としての特性や条件を十分に考慮し、かつ生徒の独自性を尊重し、その発達段階や特性をも十分に考慮しつつ、個性の伸長と調和のとれた発達とを図る。

2．教科科目の専門性と系統性を重視するため、学年をおって学習の幅と深みが得られるように、科目の履修順序や配列を考慮する。従って、低学年にあっては基礎的基本的な教科科目を配置する。又、生徒の適性と個性の進展に従って履修と修得が出来るようにする。

3．以上の指針を具体化するに当たって、次のことを実施する。
ア．3年次において、文理のコース制を取り入れる。
イ．3年次において、選択履修を増やす。

4．各教科の学習指導に当たっては、個々の生徒の特性と能力を十分に考慮して指導し、習熟度別学習などの多様な指導をいかに行なうか、具体的に考える。

資料２　新教育課程表（改訂案２）

教科	科目	標準単位数	1年	2年 L	2年 S	3年 L	3年 S	1年	2年	3年
国語	国語 I	4	6					6	5	7 5
	国語 II	4								
	国語表現	2								
	現代文	4		2	2	2	2			
	現代語	2								
	古典 I	3		3	3					
	古典 II	3				3	3			
	古典講読	2				2				
地理歴史	世界史 A	2		2	2				6 4	8 4
	世界史 B	4								
	日本史 A	2		2						
	日本史 B	4			2	4	4			
	地理 A	2		2						
	地理 B	4				4				
公民	現代社会	4						4		
	倫理	2	2							
	政治・経済	2	2							
数学	数学 I	4	4					6	7	5 7
	数学 II	3		4	4					
	数学 III	3					4			
	数学 A	2	2							
	数学 B	2		3	3					
	数学 C	2				5	3			
理科	総合理科	4						4	2 4	4 8
	物理 I A	2								
	物理 I B	4								
	物理 II	2								
	化学 I A	2			2		2			
	化学 I B	4	4	2		4	2			
	化学 II	2			2		2			
	生物 I A	2					2			
	生物 I B	4								
	生物 II	2								
	地学 I A	2								
	地学 I B	4								
	地学 II	2								
保健体育	体育	7～9	3	3	3	3	3	3	3	3
	保健	2	1	1	1			1	1	
芸術	音楽 I	2						1	1	1
	音楽 II	2								
	音楽 III	2								
	美術 I	2								
	美術 II	2	1	1	1	1	1			
	美術 III	2								
	工芸 I	2								
	工芸 II	2								
	工芸 III	2								
	書道 I	2								
	書道 II	2								
	書道 III	2								
外国語	英語 I	4	5					7	7	6
	英語 II	4		3	3	3	3			
	オーラル・コミュニケーション A	2	2							
	オーラル・コミュニケーション B	2								
	オーラル・コミュニケーション C	2								
	リーディング	4		2	2	2	2			
	ライティング	4		2	2	1	1			
家庭	家庭一般	4	2	2	2			2	2	
	生活技術	4								
	生活一般	4								
特活	ホームルーム		1	1	1	1	1	1	1	1
	クラブ		1	1	1	1	1	1	1	1
計			36	36	36	36	36	36	36	36

資料３　　新教育課程表（改訂案３）

教科	科目	標準単位数	1年	2年 L	2年 S	3年 L	3年 S	1年	2年	3年
国語	国語 I	4	6					6	5	7 5
	国語 II	4								
	国語表現	2								
	現代文	4		2	2	2	2			
	現代語	2								
	古典 I	3		3	3					
	古典 II	3				3	3			
	古典講読	2				2				
地理歴史	世界史 A	2		1 2 2		①	①		5 5	9 1 5 5
	世界史 B	4								
	日本史 A	2		2 1 2		① 4	① 4			
	日本史 B	4				4	4 ・			
	地理 A	2		2 2 1		4 4 ①	4 ①			
	地理 B	4				4 4				
公民	現代社会	4						4		
	倫理	2	2							
	政治・経済	2	2							
数学	数学 I	4	4					6	7	5 7
	数学 II	3		4	4					
	数学 III	3					4			
	数学 A	2	2							
	数学 B	2		3	3					
	数学 C	2				5	3			
理科	総合理科	4						4	4 4	1 8
	物理 I A	2								
	物理 I B	4	1・							
	物理 II	2								
	化学 I A	2		2	2		4			
	化学 I B	4	1	・	・	1	・			
	化学 II	2		2	2		4			
	生物 I A	2								
	生物 I B	4	2							
	生物 II	2								
	地学 I A	2								
	地学 I B	4								
	地学 II	2								
保健体育	体育	7～9	3	3	3	3	3	3	3	3
	保健	2	1	1	1			1	1	
芸術	音楽 I	2						1	1	1
	音楽 II	2								
	音楽 III	2								
	美術 I	2								
	美術 II	2	1	1	1	1	1			
	美術 III	2								
	工芸 I	2								
	工芸 II	2								
	工芸 III	2								
	書道 I	2								
	書道 II	2								
	書道 III	2								
外国語	英語 I	4	5					7	7	6
	英語 II	4		3	3	3	3			
	オーラル・コミュニケーション A	2	2							
	オーラル・コミュニケーション B	2								
	オーラル・コミュニケーション C	2								
	リーディング	4		2	2	2	2			
	ライティング	4		2	2	1	1			
家庭	家庭一般	4	2	2	2			2	2	
	生活技術	4								
	生活一般	4								
特活	ホームルーム		1	1	1	1	1	1	1	1
	クラブ		1	1	1	1	1	1	1	1
計			36	36＋1	36＋1	(31～27)	(34～30)	36	36＋1	34～30

資料４　　新教育課程表（改訂案４）

教科	科目	標準単位数	1年	2年	3年 L	3年 S	1年	2年	3年
国語	国語 I	4	4				6	5	7 5
	国語 II	4							
	国語表現	2	2						
	現代文	4		2	2	2			
	現代語	2							
	古典 I	3		3					
	古典 II	3			3	3			
	古典講読	2			2				
地理歴史	世界史 A	2		2 2	1			5	9か5 4
	世界史 B	4							
	日本史 A	2		1 2	1 4				
	日本史 B	4			4	4			
	地理 A	2		2 1	4 4 1				
	地理 B	4			4 4				
公民	現代社会	4					4		
	倫理	2	2						
	政治・経済	2	2						
数学	数学 I	4	4				6	7	6か2 7
	数学 II	3		4					
	数学 III	3				4			
	数学 A	2	2		2	1			
	数学 B	2		3	2				
	数学 C	2			2	2			
理科	総合理科	4					4	4	1 8
	物理 I A	2							
	物理 I B	4							
	物理 II	2							
	化学 I A	2		2					
	化学 I B	4	2	・	1	2 2			
	化学 II	2		2		・ ・			
	生物 I A	2				2 2			
	生物 I B	4	2						
	生物 II	2							
	地学 I A	2							
	地学 I B	4							
	地学 II	2							
保健体育	体育	7～9	3	3	3	3	3	3	3
	保健	2	1	1			1	1	
芸術	音楽 I	2					1	1	1
	音楽 II	2							
	音楽 III	2							
	美術 I	2							
	美術 II	2	1	1	1	1			
	美術 III	2							
	工芸 I	2							
	工芸 II	2							
	工芸 III	2							
	書道 I	2							
	書道 II	2							
	書道 III	2							
外国語	英語 I	4	5				7	6	7 6
	英語 II	4		2	2＋1	2			
	オーラル・コミュニケーション A	2	2						
	オーラル・コミュニケーション B	2							
	オーラル・コミュニケーション C	2							
	リーディング	4		2	2	2			
	ライティング	4		2	2	2			
家庭	家庭一般	4	2	2			2	2	
	生活技術	4							
	生活一般	4							
特活	ホームルーム		1	1	1	1	1	1	1
	クラブ		1	1	1	1	1	1	1
計			36	36	36か34	36	36	36	36か34 36

〈注〉　３年Ｌコースでは、地歴科４単位もしくは公民科４単位、もしくは数学Ａ２単位・数学Ｂ２単位の計４単位のいずれかを履修しなくてもよい。その際、増単位２単位をいずれかの教科科目で履修するものとする。(ただし、体育と芸術の教科は除外する)

資料５　　新教育課程表（改訂案５）

教科	科目	標準単位数	1年	2年	3年 L	3年 S	1年	2年	3年
国語	国語 I	4	4				6	5	7 5
	国語 II	4							
	国語表現	2	2						
	現代文	4		2	2	2			
	現代語	2							
	古典 I	3		3					
	古典 II	3			3	3			
	古典講読	2			2				
地理歴史	世界史 A	2		2 2				5	9 (5) 4
	世界史 B	4			4				
	日本史 A	2		1 2	1 4				
	日本史 B	4			4 ·				
	地理 A	2		2 1	1 4 4	4			
	地理 B	4			4 · ·				
公民	現代社会	4	4		1 1		4		
	倫理	2			2				
	政治・経済	2			2				
数学	数学 I	4	4				7	6	6 (2) 7
	数学 II	3		3					
	数学 III	3				4			
	数学 A	2	3		2	1			
	数学 B	2		3	2				
	数学 C	2			2	2			
理科	総合理科	4					4	4	1 8
	物理 I A	2							
	物理 I B	4	·						
	物理 II	2							
	化学 I A	2		2		2			
	化学 I B	4	2	·	1	2 ·			
	化学 II	2		2		· 2			
	生物 I A	2				2			
	生物 I B	4	2						
	生物 II	2							
	地学 I A	2							
	地学 I B	4							
	地学 II	2							
保健体育	体育	7～9	3	3	3	3	3	3	3
	保健	2	1	1			1	1	
芸術	音楽 I	2					1	1	1
	音楽 II	2							
	音楽 III	2							
	美術 I	2							
	美術 II	2	1	1	1	1			
	美術 III	2							
	工芸 I	2							
	工芸 II	2							
	工芸 III	2							
	書道 I	2							
	書道 II	2							
	書道 III	2							
外国語	英語 I	4	5				6	7	7 6
	英語 II	4		2	2＋1	2			
	オーラル・コミュニケーション A	2	1	1					
	オーラル・コミュニケーション B	2							
	オーラル・コミュニケーション C	2							
	リーディング	4		2	2	2			
	ライティング	4		2	2	2			
家庭	家庭一般	4	2	2			2	2	
	生活技術	4							
	生活一般	4							
特活	ホームルーム		1	1	1	1	1	1	1
	クラブ		1	1	1	1	1	1	1
計			36	36	36か34	36	36	36	36か34 36

〈注〉　３年Ｌコースでは、地歴科４単位もしくは公民科４単位、もしくは数学Ａ２単位・数学Ｂ２単位の計４単位のいずれかを履修しなくてもよい。その際、増単位２単位をいずれかの教科科目で履修するものとする。(ただし、体育と芸術の教科は除外する)